

前回（平成 30 年度第 1 回大船渡市協働のまちづくり検討委員会）のふりかえり

地区の現状（事務局説明）

○大船渡市の地区公民館の特色

- ・ 地区公民館と地域公民館
- ・ 役割と名称 2つの二面性

○業務の増加と変化

- ・ まちづくり、助け合い協議会

○館長・主事への負担集中と担い手不足

○人口減少社会への対応・国の動向（社会教育・地域づくり）

〔現状認識〕

- ・ 地域と連携し、うまくいっている地区もある。
- ・ 大船渡市では、地域にまだまだ力がある。
- ・ 商業区域や漁業区域など、地区のまとまり方にはかなり差がある。
- ・ 地区によって、あり方や仕組みが異なっている。
- ・ 行政から仕事が下りてきて、地域の活性化まで手が回らないように感じる。

- ・ 公民館運営審議会は、幅広い年齢層の活動、学習などを検証し、次に活かしている。
- ・ 助け合い協議会は、地区単位の第 2 層として設置されているが、地区公民館長が、助け合い協議会の生活支援コーディネーターも担っているのは、他と比べて珍しい。

- ・ 復興が見えてきて、自分の生活がもう一回スタートする時が、地域の人たちとどう関わっていくかを考えるべき時期である。

〔今後の地区のあり方〕

- ・ これまでの伝統もある中で、復興や福祉も受け止めるには、地区自体が役割を変えていかなければならない。新しい自分たちの役割を自覚し、それに合わせて話し合いの仕組みや合意形成の仕方を変えることが必要である。
- ・ 限られた役員層に頼ってしまうが、役には就いていないものの地域づくりには関心が高い方がいるかもしれない。役職者でなくとも自由に参加できる会議があるとよい。

- ・ 行政と地域が連携、あるいは組織的に解決していくと、活性化に繋がっていくのではないか。
- ・ 地区の現状と課題があり、どの部分で行政がサポートし、NPOが入るか実際に取り組みながら、検討委員会において市全体でどう進めるかということを議論した方がよい。まずやってみる方がよい。
- ・ 行政側も、御用聞き型から協働型へ変えなければいけない。
- ・ 他自治体などのあり方でゴールとしている施設の指定管理は、手段の一つであり、手段が地域の実情をみて合わないのであれば方法を変えた方がよい。

- ・ 地区のあり方は、組織体制など「かたち」を先に話すのではなく、これをやったら何が変わるのか、今どうなのかというところを発信し、共有することが大切である。
- ・ 地域、行政、NPOが、同じ目的に向かって一緒につくりあげていく姿勢・プロセスが大事である。
- ・ 他では、集落でできないことを地区単位で行い、うまく回っている事例がある。

〔今後の議論の進め方〕

- ・ 地区が何で大変なのか、どうして大変なのか、原因は何なのかを突き詰めてはどうか。
- ・ 三陸町とそれ以外の地区、あるいは地区それぞれで異なる部分があり、分析することが必要である。
- ・ 行政からは住民と協働したい、住民側からも新しい協働のあり方を求めるとすれば、両方をまわしていくような仕組みを検討したい。
- ・ 大船渡に住んで良かったと住民が思えるまちづくりは何なのか、この委員会で話したい。
- ・ 地区の問題、他の地域づくりの事例も共有し、検討していきたい。